

卒業論文（卒業研究） 1 3

担当者	荒川 雪(アラカワ ユキ)				
年度	2022	授業コード	2510109013	科目ナンバリング	
対象年次	4	授業形態	論文	単位数	8
時間割	秋	開講キャンパス	白山	教室	
主たる使用言語	日本語		実務教員科目		
授業科目区分					
授業回数					
受講対象学科					

【サブタイトル】

卒業論文、ゼミ論の執筆（メディア史、新聞、雑誌、出版、放送メディア、ネット、海外のメディア、東アジア国際政治史）

【講義の目的・内容】

4年間の研究の総仕上げとして、卒論論文（卒論）を執筆してもらう。具体的な指導は火曜日2限に開講される「メディアコミュニケーション学演習ⅢB1」で行う。指導する卒論のテーマとして、以下の7つのメディア領域を指定する。

- ・メディア史（日本、中国語と英語圏のメディア史を中心に）
- ・新聞（新聞出版史、新聞内容の比較、言説分析）
- ・雑誌（雑誌出版史、雑誌内容の比較、言説分析）
- ・出版（書籍出版史、言論分析）
- ・放送メディア（ラジオ、テレビ、映画などの放送メディアの歴史、作品分析）
- ・ネット（ネットメディア、産業の発展史）
- ・海外のメディア（中国語と英語圏のメディア史、移民のメディア史、海外のメディア報道の比較、内容分析を中心に）
- ・東アジア国際政治史（中国の政治、外交を中心とした東アジア国際関係史）

受講生はこの7領域のいずれかで、教員の指導に従って、メディアコミュニケーション学、メディア史、政治史、外交史の観点からテーマを選択する。卒論テーマの決定は教員と複数回の面談を経て決定する。

【学修到達目標】

- 1) メディアコミュニケーション学、国際関係史の領域で、専門的な観点から卒論のテーマを選択できる。
- 2) 教員の指導に従い、専門的な知識で文献・史資料を収集・分析することができる。
- 3) ほかの学生の発表を聞いて、専門的な討論に参加することができる。
- 4) 卒業論文（卒論）またはゼミ論文（ゼミ論）を執筆する。卒論の3~4万字程度を目安とする（目次、図表、注釈、参考文献リストを含む）

【講義スケジュール】

秋学期：学生の個人発表を順次に行う、1人2回以上を行う。教員からはメディア学・歴史学のアカデミックスキールの基本、調査、史資料収集の方法、論文の執筆方法、論文のタイトルの付け方などを説明する。必要に応じて、授業外に個人面談を行う。1月上旬に論文提出（日時は後日指定）。

第1回 授業オリエンテーション及び個別進捗報告

第2~8回 個別進捗報告と総合討論（発表する学生の報告に対してほかの学生も質問、コメントできるように、報告

者は事前に資料をT o y o N e t - A C Eにアップし、ほかの学生は事前に確認する)

第9回 卒論(ゼミ論)のゼミ内での仮提出(T o y o N e t - A C Eのレポート機能でワードファイルで提出する。

提出する論文は、表紙、目次、本文、注釈、引用文献一覧、図表を含む)

第10-12回仮提出論文に対するゼミ生による総合討論、教員からの個別指導

第13回 卒論(ゼミ論)のゼミ内の最終版の仮提出(教員からの個別指導後の修正版の提出、教員による最終確認)

第14-15回卒論(ゼミ論)の最終発表(教員による最終確認後の論文の完成版をゼミ内で発表、総合討論)

【指導方法】

履修者は毎月1回程度、研究の進捗状況を授業時に発表する。発表を際して、執筆したゼミ論の内容、図表を簡単にまとめたレジюмеを使用して、事前にゼミ生にも配布する。

学生の発表資料、卒論(ゼミ論)の仮提出は基本的にT o y o N e t - A C Eを通じて行う。教員と学生の連絡はメールとT o y o N e t - A C Eのスレッド機能で行う。

【事前・事後学修】

事前学習としては、卒論(ゼミ論)の研究を進めるために、研究課題に関する資料・情報の探索、収集、分析、進捗発表のための配付資料の作成、口頭発表の準備をする。事後学習としては、ほかの学生、教員の指導意見に従い、卒論(ゼミ論)の本文、分析内容、図表の修正を行う。

以上の作業週に5時間程度の事前・事後学習が必要である。さらに、卒論執筆の時間について、個別テーマによって毎週に必要な時間が違う。必ず教員と相談したうえで作業を進めるため、卒論執筆の時期に十分な学習時間を確保してください。

【成績評価の方法・基準】

基本的には、最終的に提出された論文によって評価する。

評価は「東洋大学成績評価基準」に準拠する。

【受講要件】

特に定めないが、以上の7領域の卒論(ゼミ論)が執筆できる学生を限定する。

【テキスト】

使用しない。授業中に適宜にプリント配布する。

【参考書】

履修者の個別テーマに対して個別に指示する。

【関連分野・関連科目】

メディアコミュニケーション学基礎演習、メディアコミュニケーション学演習Ⅱ、メディアコミュニケーション学演習Ⅲ、多文化コミュニケーション論、中国語及び中国語圏社会事情A・B

【備考】

【添付ファイル1】

【添付ファイル2】

【添付ファイル3】

【リンク】